

◆ お互いを思いやる心で元気なまちへ

少子化・高齢化が進んでも次世代に伝えたいもの、それが我孫子市民の人と人の優しい関係です。

これまでも高齢者・障害者への支援、スポーツや文化活動を通じての子どもの育成など、私たちの心の絆は確かなものがあります。保健、医療、福祉の充実はこの絆をもっと強く自由にします。必要な時に必要なサービスを提供し、地域で支え合うしくみをつくります。公共施設、歩道などのバリアフリー化もそのひとつ。一人ひとりの自立を促し、障害者、高齢者も社会参加できる積極策をすすめます。同じく子どもの出生、子育ても、家庭、学校、地域の連携の中で安心してできるよう知恵をいかします。子や孫に我々の手づくりの人間関係を伝えることによって、相手を思いやる視野の広い子どもたちをはぐくんでいきましょう。住環境についても三世代にわたる定住につながる施策に取り組みます。

私たちは、地域と人への愛着が自然に生まれるまちをめざします。

◆ 出会いと交流で活力を生むまちへ

出会いがあり、交流があり、その中から喜びと活力が生まれてくる。21世紀の豊かさは自由時間が生む文化のありようで測られるでしょう。

我孫子の市民活動や生涯学習はその発信の場として、誰もが自分の能力を発揮してきました。そのレベルは高く、市民、事業者、市が対等なパートナーとしてまちづくりに参画するグループも出てきています。このような市民の市政への参加や起業への動きは、我孫子の大きな特長です。情報技術の活用がすすみ、農家、商店、企業人、NPO、ボランティアの積極的な活動が、我孫子ならではの発信情報を生んでいきます。地元生産、地元消費を基本とした都市農業、研究機関や大学との協働事業などにも情報ネットワークが威力を発揮します。この地であつて文人や芸術家が創作に励んだと同じように、市民は思い思いの創造のやりとりを楽しむでしょう。

私たちは、多様な文化を生む時間と空間のあるまちをめざします。

私たちは、この将来都市像を

『 手賀沼のほとり 心輝くまち 』

～人・鳥・文化のハーモニー～

として共通の目標にします。